

金蘭会Tokyo



金蘭会東京支部会報

May, 2015 No.22

編集・発行／金蘭会東京支部（大阪府立大手前高等学校同窓会）
事務室／設案・阪本法律事務所内
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-2 みつわビル3F
http://kinran-tokyo.in.coocon.jp/

節目の90回記念総会

全員参加のイベントで盛り上がる

金蘭会東京支部総会は回を重ね、2014年7月6日（日）、皇居に隣接するグランドアーク半蔵門で開催された今回の総会で90回を数えるに至りました。

安橋金蘭会会長、石田副会長を大阪より迎え、節目の総会に173名の参加者が集いました。

今回初めて役員主導によるメインイベント運営を試み、過去10年間の総会を振り返る『金蘭会この10年のあゆみ』と題したスライドショーと、全員参加のテーブル対抗クイズ大会が行われ、会場は盛り上がりました。また10年間総会皆勤者の表彰も行われ、昭和18年卒の濱口和子さんをはじめ15名の会員に賞状が贈られました。



▲総会会場のグランドアーク半蔵門



当番幹事を終えて

吉浦（横井）詠子（昭和58年卒）

東京支部の活動を知ったのは、5年前。当時の私は関東周辺の同期生との交流が始まりませんでした。が、幹事をお引き受けしたことがきっかけで多くの出会いに恵まれました。

約1年間の準備期間を経て迎えた第90回総会当日。皆勤賞の方々への記念品贈呈の後、懇親会では役員の皆様を担当していただいたイベントも大いに盛り上がり、ス

ムーズな司会進行で滞りなく終わることができました。惜しみないサポートをいただいた諸先輩方と心強い幹事メンバー、快く協力に駆け付けてくれた多くの同期生に心より感謝しています。

卒業後30年以上経った今、様々な年代の同期生との交流の輪に参加できたことは貴重な経験となりました。ありがとうございました。

役員手作りのイベント

森 正雄（昭和44年卒）

「タレントが見つからないので、今年の総会はイベントなしでやりたい」という当番幹事の発言に春の幹事会は混乱した。「森さんが作った過去10年の総会のスライドショーを上映しましょう」という提案でその場は収まったが、安易な解決策に私自身納得がいかなかった。幹事会後、90回記念にふさわしい

◀ 10年間総会皆勤者

皆勤者の方々	
☆濱口 和子さん (S18)	☆村山 光孝さん (S45)
☆森澤 寿子さん (S20-5)	☆岡 幸夫さん (S46)
☆二神 裕子さん (S20-4)	☆野口 満之さん (S48)
☆栗田 恒子さん (S22)	☆中原 精一さん (S49)
☆黒川 暢一郎さん (S28)	☆宮崎 淳史さん (S49)
☆浅野 大三郎さん (S31)	☆西 史郎さん (S51)
☆吉永 孝一さん (S33)	☆小原 さゆ子さん (S52)
☆渡邊 忠彦さん (S38)	



イベント企画を立案し、4月12日の臨時役員会に諮った。スライドショーは少し短めに再編集し、各年の冒頭に、当番幹事さんのモノローグを入れる。もう一つはこの10年の出来事をもとにクイズ大会を行うという内容である。提案は台意され、役割分担して手作りにすることになった。

5月24日、過去10年の歴代当番幹事さんに阪本支部長のオフィスに集まってもらい、ビデオカメラの前で総会幹事の苦労話、思い出を語ってもらった。当日都合がつかない幹事さんには自己収録したメディアを後日送ってもらうことにした。

クイズの方も、出題方式、問題、景品等アイデアが飛び交い、支部総会当日まで役員間で議論した。

結果はご存じのとおりで、予想以上に盛り上がったのは正直驚いたが、この手は何度も使えるものではないことも確かである。

知識は貪欲に



元神奈川歯科大学教授

廣重 壽子 さん
(旧姓: 三木)
(昭和 18 年卒)

男子生徒の中には戦場に行きたくないため、わざと怪我をした人もいた。切羽詰った男子の立場に胸のつぶれる思いがした。東京大空襲を経験し、1947年卒業して両親が住む京都に戻った。

23歳4か月で京都大学理学部に入學した。父は喜んだが、男の領分が侵されたみたいに慄然としてもいた。母はまるで自分が受かったみたいに大喜び、「女かてな勉強したらできるねん、がんばりや」と言った。高等植物の受精が生涯のテーマとなり、花粉の研究で学位を得た。大学で知り合った廣重徹は、「一生、三木姓のままて研究を続けたい」という自分の希望を了解し、大学院在学中に結婚した。現代物理学史研究、および明治以後の

文科系は自分ひとりでも勉強できる、理科は設備がなければ勉強は難しいから、理科がやりたい、勉強するなら奈良ではなく東京で、との思いから、進学先を東京女子高等師範学校と決めた。高等師範学校では生物学を専攻したが、大手前女学校在学中に始まった戦争はますます激化していった。動員された工場では

日本の自然科学の社会的な研究をしていた夫は研究熱心で徹夜で勉強していた。朝の早い私は、夫を起こさないように、息子と静かに朝食を済ませ、そと家を出る毎日だった。私に米国への留学の機会があったとき、夫は後押ししてくれ、一人息子は両親が預かってくれた。米国の大学では、MyoHoshidaをアイソトープでラベルしたものテッポウユリの雌蕊に吸わせてその行方を

トレースして、花粉管の栄養源を調べた。この留学で自分の研究に自信をもつことができ、海外でも気後れすることがなくなった。残念ながら、夫は50歳前に病気で亡くなった。

職を得た大学では一般教養科目として自然科学概論を担当したが、歯科大学であったため学生の指導をする必要もなく、花粉の研究に没頭できた。世界各地での国際学会にも積極的に参加してきた。定年後も、花粉が発達していく時、その中に含まれているたんぱく質の質も量も当然変化するのはすなわち、どんな蛋白質がどのように変っていくのかを調べ、論文にまとめた。

海外の学会に積極的に出かけるうち、オーストラリアで行われたある学会の折、ニュージーランドの研究者から探鳥の手ほどきを受けた。帰国後、新聞で日本野鳥の会の活動を知り、神奈川支部の会員になった。野鳥の会では探鳥のみならず、仲間との語らいが楽しい。米国の野鳥の会主催のツアーにもたびたび参加し、南極を訪れ、世界のペンギン全種を観察した。鎌倉の自宅では2階の寝室の東向の窓からも野鳥の観察を楽しんでいる。

感染症 治而不忘乱



国立感染症研究所ウイルス第一部室長

高崎 智彦 さん
(昭和 50 年卒)

七十年ぶりの再来、 Dengue 熱国内流行、昨年の8月から10月にかけてこんなタイトルの報道がマスコミにあふれたことは、記憶の方が多いと思います。昨年の Dengue 熱国内侵入は、それまで幸運にも SARS や鳥インフルエンザウイルス H5N1 が侵入しなかつ

た日本にも、海外の感染症が侵入するのだという警鐘を与えました。Dengue 熱はそのカタカナ名から新しい病気だと思われがちですが、日本では太平洋戦争中の1942年から1945年にかけて、長崎、佐世保、広島、呉、神戸、大阪などの西日本の諸都市で20万人規模の Dengue 熱流行がありました。Dengue ウイルスはヤブ蚊(日本ではヒトスジシマカ)によって媒介されるウイルスで、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルスや黄熱ウイルスの仲間です。私は国立感染症研究所でこのような蚊が媒介するウイルス感染症の研究および業務をおこなっています。業務は日本脳炎ワクチンの有効性と安全性の検査(国家検定)と黄熱ワクチンの安全性の検査です。また検疫官を併任している関係で、横浜検疫所で水曜日に黄熱ワクチンを接種しています。日本脳炎ウイルスと Dengue ウイルスは仲間ですが、媒介する蚊

は異なり、日本脳炎はコガタアカイエカというイエカ、Dengue ウイルスはヒトスジシマカというヤブカです。ヒトスジシマカは庭先や代々木公園のような公園の灌木に生息する待ち伏せ型の蚊で、昨夏は海外から帰国する人は来日した Dengue 熱患者を刺したヒトスジシマカが感染蚊となり、代々木公園およびその周辺を訪れた人々の間で感染が広がりました。Dengue 熱ワクチンはまだ実用化されておらず、我々はワクチンや抗ウイルス剤評価のための動物モデルを開発しています。

横浜検疫所に野口英世博士が渡米前に数ヶ月勤務していた時、貨物船の乗組員にペスト患者を発見し、国内侵入を防いだ歴史がありますが、飛行機の時代になり海外からの帰国者、来日者数が減少することがますますない現状で、Dengue 熱国内流行リスクを減らすにはヒトスジシマカの発生源である小さなたまり水を減らすことが重要です。感染症対策は「いたちこ」です。治に居て乱を忘れず、治而不忘乱、過去の流行を忘れず常に備えておくことが必要です。

1982年 大阪医科大学卒業、臨床研修後、大阪府済生会中津病院耳鼻咽喉科医員 / 1987年からエイズ研究で米国 UCLA に留学後、大阪医科大学助手 / 1991年から近畿大学医学部細菌学教室講師 / 1998年から国立感染症研究所ウイルス第一部室長 日本ウイルス学会理事、現在厚生労働省感染症部会専門委員。

1947年 東京女子高等師範学校卒業 / 1947-49年 同志社女子中等高等学校教諭 / 1952年 京都大学理学部植物学科卒業 / 1952-62年 同大学院 / 1962-67年 東京大学理学部植物学科研究生 / 1967-68年 ニューヨーク州立大学バッファロー校留学 / 1964-93年 神奈川歯科大学教授 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター研究協力員

発足は2004年、サロン開催は金曜日

金蘭会サロンは2004年のディズニー・シーのホテルでの総会の時に同期の直江さんと同席し10年後に幹事が回ってくる時に困らないように若手で集まらない?と声をかけられたのが始まりです。当時流行り始めだったmixiでコミュニティーをつくって皆さんを誘ったのですがSNSを使った勧誘に怪しげに思われてしまいました。

開催当初から2ヶ月に1度ぐらいのペースでバーや居酒屋などで夜仕事帰りに適当に合流するという気楽な会です。春には川端さん(昭和52年卒)宅で花見に誘って頂いたり、私たちの世代だけでなく細溝さん(昭和49年卒)の世代からまだ大学生の方まで幅広い世代で集まっています。 「びび」こと竹内久啓(昭和59年卒)



▲2004年ホテルミラコスタでの総会より

現在、金蘭会サロンは数ヶ月に1度、金曜日の夜に開催しており、様々な年代の方々に御参加いただいております。各年代での高校時代の思い出話、仕事や趣味の話題を肴に、和気あいあいとしゃべりあっており、職業や年代を越えて楽しく話ができるのも、大手前高校という根っこがあるからだと思えます。

昨年は細溝先輩(昭和49年卒)の金融庁長官御就任祝賀会を開き、多くの方に御参加いただききました。会の中身は細溝さんの御人柄もあり、いつもと変わらぬ和んだ雰囲気となりました。また、年明けには新年会を



開催し、活発な交流の場となりました。

卒業生はどなたでも参加可能ですので、是非ご連絡ください。

◀母校名入りの特製のタオルをかざす細溝清史さん

問い合わせ先は
伊東 健士(平成2年卒)

Email:take.it.easy.1980.02.15@gmail.com

金蘭会で、大手前で、

世代を越えたミニ同窓会
毎年10月に「二子玉会」

2004年に学年幹事となり、ディズニーシーのホテルミラコスタで80回記念総会を開催。ミッキーやミニニーに身近で会えるという事で、家族も参加したいという要望がありました。総会ということでお応えできませんでした。

翌年支部役員になった時、家族もOKな気軽なランチ会を始めようと思い、二子玉川駅周辺でという意味で「二子玉会」と名付け、会報で参加者を募りました。集まるかどうか心配でしたが、14名の参加があり、最年長は昭和9年卒の方「大阪城が建ち上がったいくのを毎日見ていました」とのお話が印象的な第1回の会でした。それから、男性も増えるなどメンバーが変わりながらも、昨年でなんと10回を数えました。

一人でも初参加でも、学年を超えた繋がりがすぐにできるのは、同窓会ならではの事。10月の二子玉会は毎年秋晴れに恵まれるという特異日、今年もまたきつと。



▲第3回の二子玉会は和食で歓談

母校でセミナー講師

竹村(田中)泉(昭和48年卒)

毎年12月、生徒に多様な学びの場を提供する集中セミナーが実施されます。社会人を講師に招き、校内講座や、校外での体験学習など、昨年度は141の講座が開催されました。

アメリカ総領事館、大学、保育園、飛鳥博物館、大阪法務局、JTB、能楽堂、ヨガ体験などの校外学習、校内では宇宙工学、弁護士、獣医、アナウンサー、トルコ料理教室、外資系企業等の多彩な講座がありました。



▲2014年12月母校教室で在校生と

その中で、私は「NPOの活動」についての講師を担当。NPO法人とはから始め、NPOで働く、他の仕事をしながら、また学生で参加するという切り口で、大手前の先輩後輩、失敗談を含めた私自身と家族の例をあげて説明しました。

校舎は変われど、昔のままの制服(多少スカートは短くても)を着た生徒たちと話をしていると、昔日の自分の姿と重なりました。

Information

● 仲間募集…「二子玉会（にこたまかい）」

東急田園都市線二子玉川駅周辺で、異学年交流のできる気軽なランチ会です(3面参照)。昨年は10月19日(日)柳小路の「ピストロみや乃」で、初参加6名を含む20名が集まりました。今年も10月の土日開催予定です。金蘭会に関係する方なら、どなたでも参加できます。

連絡先: 竹村 泉(昭和48年卒) ☎045-984-6362
E-mail: 426izumi-t@e08.itscom.net



● 支部会費

年会費として千円、終身一括払いとして一万円をお願いしております。今年度からお支払方法が変わります。詳細は同封の総会案内をご覧ください。お問い合わせはお手数ですが支部までお願いします。

● 3行広告、原稿募集

出版、個展、講演会、講習会、教室等の有料広告のほか、ご意見、エッセイ、趣味やペットコーナー等原稿も募集しています。

● 金蘭会東京支部ホームページ

<http://kinran-tokyo.in.coccan.jp/>
支部の最新情報をご覧になれます。

東京支部へのお問い合わせ、メールアドレスの登録や変更もホームページからお願いします。

● 支部会計報告(平成25年度) (平成25年1月1日~12月31日)

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越	6,328,844	総会補助費	282,364
支部会費	398,000	支部運営費	127,157
(内訳)	(内訳)		
終身会費分	310,000	会議費	13,069
年会費分	88,000	事務所使用料	0
		会報印刷代	58,168
雑収入	0	通信費	3,570
貯金利息	359	HP費用	5,670
		雑費	19,180
		交通費	27,500
		次期繰越金	6,317,682
合計	6,727,203	合計	6,727,203

編集後記

今回の支部会報と総会案内は新形態でお届けしました。今後ともよろしくお願いたします。

会員だより

同期でマラソン 昭和49年卒

マラソンをすることになったのは数年前。皇居を走り始め、その後大阪マラソンのスタート地点が母校の前ということもあり、団体でエントリーし続けるも落選の涙。その代りにつくばマラソンや皇居での練習会には仲間が次々と集まります。もちろんその後の飲み会がメインイベントなのは言うまでもありません。飲み会だけの参加者も次こそは引つ張って皆で「元気で100歳」を目指します。

(大坪)



▼仕事をしていた時は近所だったこともあり昼休みも皇居ジョグ。つくばにも参加しました。
▼6年前に始めました。走る前は時々「イヤだな」と思うこともありますが走った後の爽快感は生き甲斐にすらなりそうです。
▼5年ほど前から走り始め、地元をつくばは皆勤。海

(辻)

▼健康のために走りだしダイエットにも成功。奥さんは「好きにすれば」と冷やかですが、毎週スポーツジムでの10km走はやめられません。最近靴などにも凝り始めました。
▼高校時代、100kg超のひきこもりが、27歳頃500mから始めたランのおかげでリバウンドもなく現在70kg以下。腹筋も割れ同窓生に驚かれます。走つているときは心もほぐれ「これがランナーズハイか」と感じる瞬間も。
▼5年ほど前から走り始め、地元をつくばは皆勤。海



外も一昨年ベネチアを走って味をしめ次を物色中。3時間半以内が目標。
▼ノリの良さではトップクラス。初マラソンのつくばでは4時間28分で走破し周囲を唖らせました。もちろん後のビールも最高。

(岡村)

(岡田)



我が家のペット

スバル

親兄弟に置いて行かれて、ディーラーの車のエンジンルームに油まみれになっていたところを助けられ、つけられた名前がスバル。一日だけの約束で預かったのですが、17年たってしまいました。

中原 精一(昭和49年卒)



我が家の自慢の愛猫「たまこ」です。ベルシャのチンチラシルバーという猫なのですが、みかけによらず気が荒くて、すぐ爪をだして人(私のことですが)を引っぱたきます。でも家内にはすごく懐いていて可愛らしく甘えるのです。うっ、羨ましい……

江田 憲治(昭和49年卒)

たまこ

